

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
謹白

記

■ 受託開始日 2023年1月30日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	提出材料	検体量	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法
OM57 1	倫理指針対象 MMRタンパク (IHC) (リンチ症候群) 5D615-0000-075-666	未染標本 スライド	未染標本 スライド 9枚	Z10 (t)	室温	5~10	2700 ※8	免疫組織化学 染色法 &1

※8：病理判断料

< [OM57 1] MMRタンパク (IHC) (リンチ症候群) の留意事項 >

- 本検査は、ミスマッチ修復タンパク質であるMLH1、MSH2、PMS2、MSH6の保持・消失を免疫組織化学染色 (IHC) 法により確認いたします。
- 本検査は、リンチ症候群の診断の補助を目的とした検査です。



●MMRタンパク（IHC）（リンチ症候群）

大腸癌におけるリンチ症候群の診断補助に有用な検査です。

リンチ症候群は、ミスマッチ修復（mismatch repair：MMR）遺伝子の生殖細胞系列バリエーションを原因とし、大腸癌や子宮内膜癌等の発病リスクが高まる常染色体優性遺伝性腫瘍症候群です。

本検査は、MMRタンパク質であるMLH1、MSH2、PMS2、およびMSH6の保持・消失を免疫染色により検出することで、大腸癌におけるリンチ症候群の診断補助に有用な検査です。

▼疾患との関連

大腸癌
リンチ症候群

▼関連する主な検査項目

MSI検査（リンチ症候群）
BRAF V600Eタンパク（IHC）

▼検査要項

検査項目名	倫理指針対象 MMRタンパク（IHC）（リンチ症候群）
項目コード	OM57 1
検体量	未染標本スライド 9枚
容器	Z10（t）オブジェクトケース
保存方法	室温保存してください
所要日数	5～10日
検査方法	免疫組織化学染色法
報告範囲（単位）	【親展報告】 MLH1、MSH2、PMS2、MSH6：保持、消失、評価不能 判定：dMMR、pMMR、評価不能 医師による判定：実施済み 判定医：判定した医師名を報告します
検査実施料	2700点 （「N005-3」PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製）
判断料	130点（病理判断料）
備考	&1

※保険適用条件については「SRL NEWS No.2022-73 検査実施料に関するお知らせ」をご参照ください。

＜[OM57 1] MMRタンパク（IHC）（リンチ症候群）の提出方法＞

- 1) 癌細胞の有無が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書（コピー）の添付をお願いいたします。（ただし、当社で一般病理検査を実施している場合は不要です。）なお、諸事情により添付できない場合は、依頼書に病理診断名（組織型等）の他、臨床情報等可能な範囲での記載をお願いいたします。
- 2) 材料は大腸癌の未染標本スライド（ホルマリン固定パラフィンブロックから作製されたもの）となります。シランなどのコーティングスライドをご使用のうえ、薄切後は約40℃で一晩乾燥させた後、ご提出ください。
- 3) 組織は4μmの厚さに薄切し、なるべく中央に貼り付けてください。
- 4) パラフィンブロックでご依頼の場合、未染標本スライド作製のため所要日数が遅れますので、営業員へご確認ください。
- 5) 組織の固定については、10%中性緩衝ホルマリンが推奨されています。

●参考文献

名倉 宏，他：渡辺・中根 酵素抗体法 改訂四版（学際企画）：147～150，2002。（検査方法参考文献）
大腸癌研究会：遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020年版：76～78，2020。（臨床的意義参考文献）